



堺化学工業株式会社

堺化学工業株式会社

2020年3月期決算説明会

2020年5月26日

イベント概要

[企業名] 堺化学工業株式会社

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2020年3月期決算説明会

[決算期] 2019年度 通期

[日程] 2020年5月26日

[ページ数] 27

[時間] 15:30 - 16:21
(合計：51分、登壇：30分、質疑応答：21分)

[開催場所] インターネット配信

[会場面積]

[出席人数]

[登壇者] 2名
代表取締役社長 矢部 正昭 (以下、矢部)
取締役 佐野 俊明 (以下、佐野)

登壇

司会：本日は、お忙しい中、堺化学工業株式会社、2020年3月期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日の予定でございますが、初めにIR担当取締役の佐野より2020年3月期決算の概要を、その後、代表取締役社長の矢部より2021年3月期についてご説明申し上げます。最後に、質疑応答の時間を設けております。

新型コロナウイルス感染症による影響・対応等	
感染被害	当社グループにおいて従業員の感染なし。
工場運営	検温、マスクの着用、アルコール消毒液の設置、工場や建物への出入管理の厳格化、出張や会議の制限およびWeb会議システム等の活用、時差出勤やテレワークの実施など、顧客、調達先、社員とその家族の安全確保ならびに感染予防と拡大防止に努めている。 現時点では、工場の操業は関係会社を含め定常操業を行っている。
物流・資材	現時点では大きな問題なし。

 SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD. 2

説明に移る前に、スライド番号2に記載しております、堺化学グループの新型コロナウイルス感染症による影響と対応等についてご報告いたします。

現時点では、当社グループにおいて感染者は出ておりません。

また、検温、マスクの着用、アルコール消毒液の設置、工場や建物への出入管理の厳格化、出張や会議の制限および Web 会議システム等の活用、時差出勤やテレワークの実施など、顧客、調達先、

社員とその家族の安全確保ならびに感染予防と拡大防止に努めながら、関係会社を含め、定常操業しております。

物流や資材面においても、大きな問題は出ておりません。

それでは、2020年3月期決算の概要につきまして、佐野よりご説明いたします。

2020年3月期業績概要（対前期）						
金額単位：百万円						
	2019.3		2020.3		増 減	
	売上高比		売上高比			
売上高	89,541	100.0%	87,177	100.0%	▲ 2,364	▲ 2.6%
営業利益	4,404	4.9%	4,015	4.6%	▲ 389	▲ 8.9%
経常利益	4,553	5.1%	4,208	4.8%	▲ 344	▲ 7.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,606	4.0%	2,535	2.9%	▲ 1,070	▲ 29.7%
ROE	4.6%		3.3%			

<p>◆ 売上高 有機化学品および化粧品材料、医療事業は堅調に推移したものの、電子材料、酸化チタン、触媒が低調に推移し、減収となった。</p>	<p>◆ 営業利益 設備投資を行った電子材料、受託加工において減価償却負担の増加をカバーできず、また酸化チタン、触媒、樹脂添加剤の固定費上昇により、減益となった。</p>
--	--



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

6

佐野：それでは、2020年3月期の業績概要についてご説明いたします。

まず、スライドの6ページ目をご覧ください。2020年3月期の売上高は871億7,700万円と、前期に比べましてマイナス23億6,400万円、2.6%の減となりました。有機化学品および化粧品材料、医療事業は堅調に推移したものの、電子材料、酸化チタン、触媒が低調に推移し、減収となりました。

営業利益に関しましては、40億1,500万円と、前期に比べましてマイナス3億8,900万円、8.9%の減となっております。

最近、設備投資を行って注力してきました電子材料や化粧品材料のうち、電子材料が償却増をカバーできないほどの売上減となったこともありまして、営業利益を減らしております。また、酸化チタン、触媒、樹脂添加剤につきましても減産となりまして、固定費が上昇したことも減益の要因であります。

経常利益は42億800万円と、前期に比べましてマイナス3億4,400万円、7.6%減、親会社株主に帰属する当期純利益は25億3,500万円と、前期に比べましてマイナス10億7,000万円、29.7%減となっております。

5カ年計画で目標数値に置いております営業利益に関しましては、前期に比べまして0.3ポイント減の4.6%にとどまっております。また、ROEにつきましても、3.3%と前期の4.6%から大幅に下がっております。

		金額単位：百万円			
		2019.3	2020.3	増 減	
化学事業	売上高	81,256	78,555	▲ 2,700	▲3.3%
	営業利益	6,326	5,614	▲ 712	▲11.3%
医療事業	売上高	8,285	8,621	336	4.1%
	営業利益	376	594	217	57.8%
全社費用	売上高	—	—	—	—
	本社部門費	▲ 2,297	▲ 2,193	—	—
合計	売上高	89,541	87,177	▲ 2,364	▲2.6%
	営業利益	4,404	4,015	▲ 389	▲8.9%

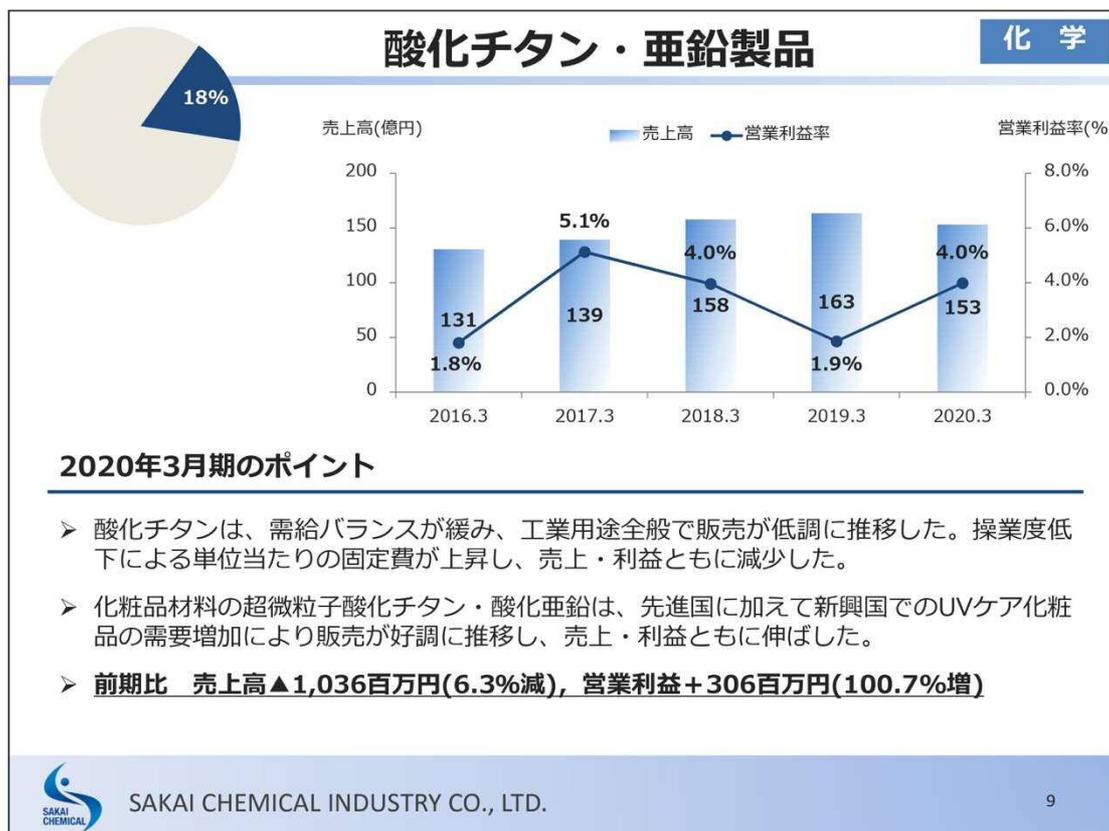
続いて、事業別売上です。7ページ目につきましては、その後のページで各製品グループについて説明していきますので、ここを飛ばします。



次の8ページ目のスライドをご覧ください。まず、連結売上高の10%を占める電子材料ですけれども、電子部品の需要増加を見越し、積層セラミックコンデンサ向けの誘電体（チタン酸バリウム）および誘電体材料（高純度炭酸バリウム）の設備増強を行ってきました。

しかし、米中貿易摩擦や中国景気減速等を背景とした在庫・生産調整の影響を受けたほか、一部開発品においては上市時期が遅れたことから、当年度の販売計画を大きく下回る結果となり、減価償却費の負担が増加し、売上・利益ともに減少しました。

売上高は、前期比マイナス3億1,800万円、3.5%減の86億3,000万円、営業利益は前期比マイナス5億3,400万円、82.0%減の1億1,700万円にとどまっております。

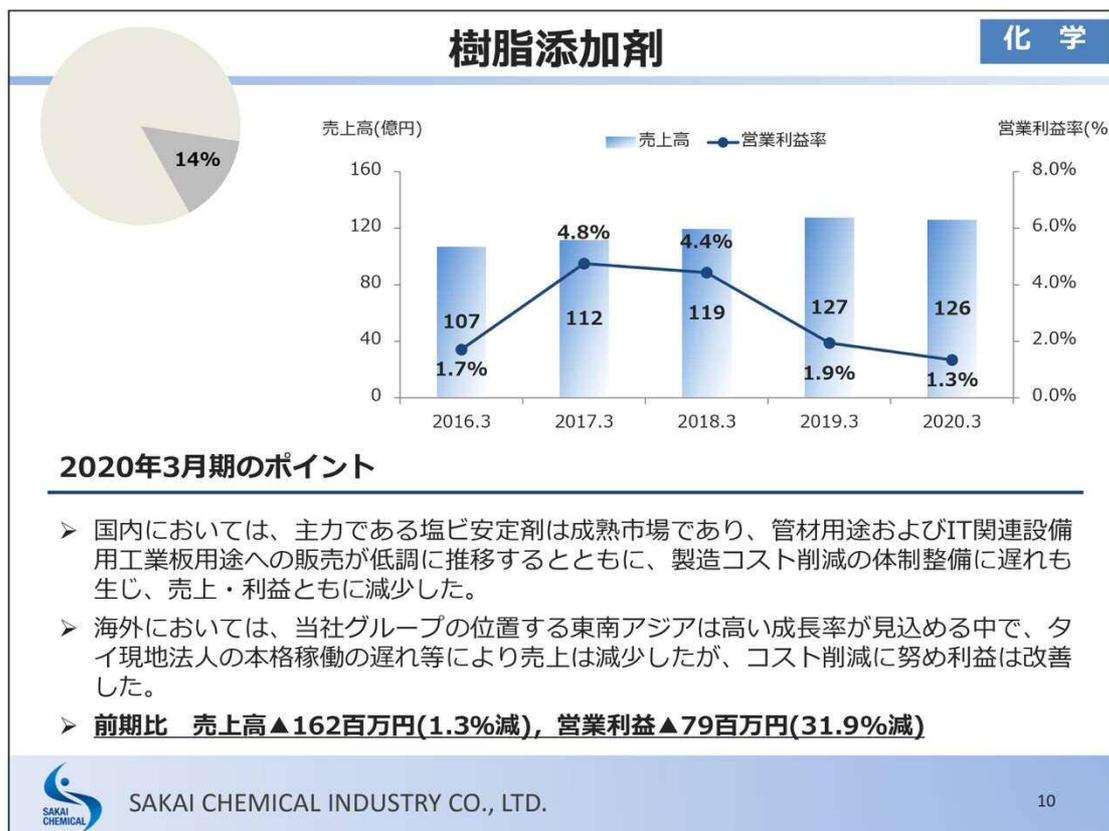


続いて、酸化チタン・亜鉛製品です。これは、売上高の18%ということで、当社グループの中では最も大きい売上高の比率となります。酸化チタンは、需給バランスが緩み、工業用途全般で販売が低調に推移しました。また、操業度低下による単位当たりの固定費が上昇しまして、売上・利益ともに減少しました。

一方、化粧品材料の超微粒子酸化チタン・酸化亜鉛は、先進国に加えて新興国でのUVケア化粧品の需要増加によりまして販売が好調に推移し、売上・利益ともに伸ばしております。

この化粧品につきましては、酸化チタン・亜鉛グループの中で売上高に占める比率が2019年3月期に13%だったものが、2020年3月期には17%と、4%ほど増加したところが大きいです。

これによりまして、売上高は前期比マイナス10億3,600万円、6.3%減の153億500万円となりましたが、営業利益は前期比プラス3億600万円、100.7%増の6億1,000万円となっております。



続いて、樹脂添加剤です。国内においては、主力である塩ビ安定剤は成熟市場でもあり、管材用途およびIT関連設備用工業板用途への販売が低調に推移するとともに、製造コスト削減の体制整備にも遅れが生じ、売上・利益ともに減少しました。

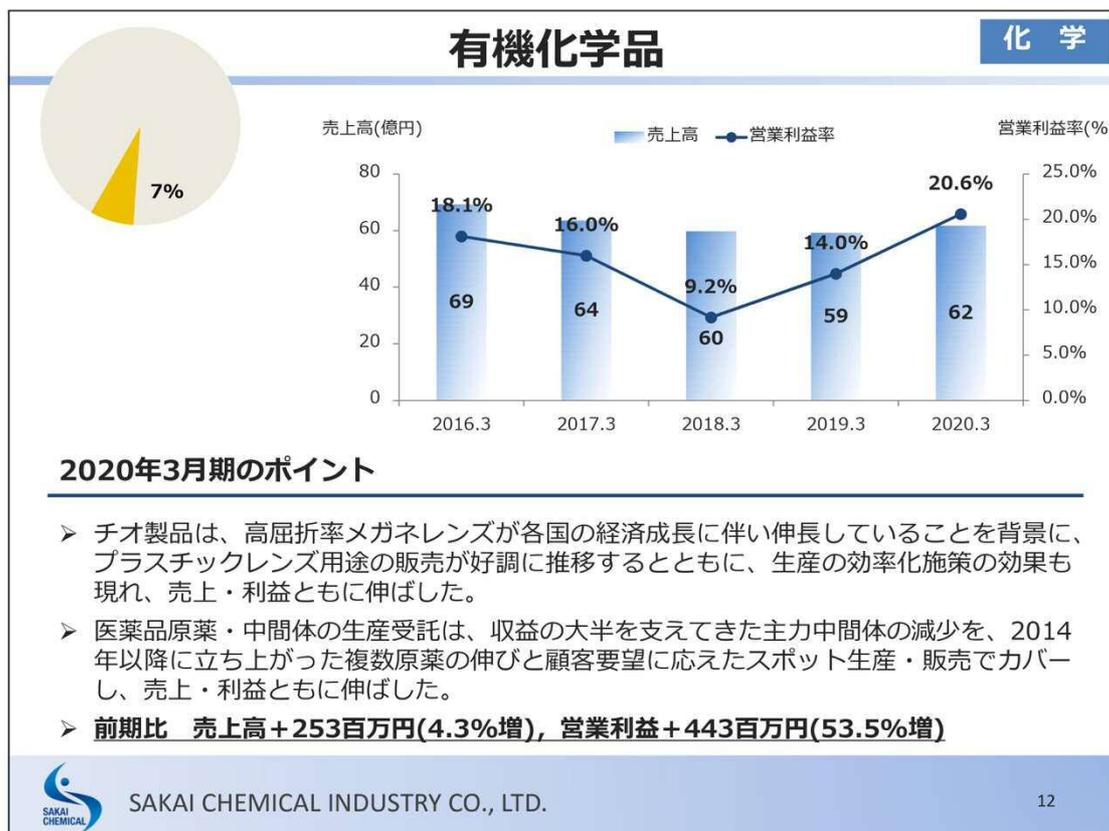
また、注力しておりました海外におきましては、当社グループの位置する東南アジアは、高い成長率が見込める中で、タイ現地法人の本格稼働の遅れ等により売上は減少しましたが、コスト削減に努め利益は改善しました。

これらによりまして、売上高は前期比マイナス1億6,200万円、1.3%減の125億8,300万円、営業利益は前期比マイナス7,900万円、31.9%減の1億6,900万円となりました。



続いて、衛生材料です。紙おむつ市場の競争が激化する中、売上は前年並みとなりましたが、歩留まり悪化により利益は減少しております。

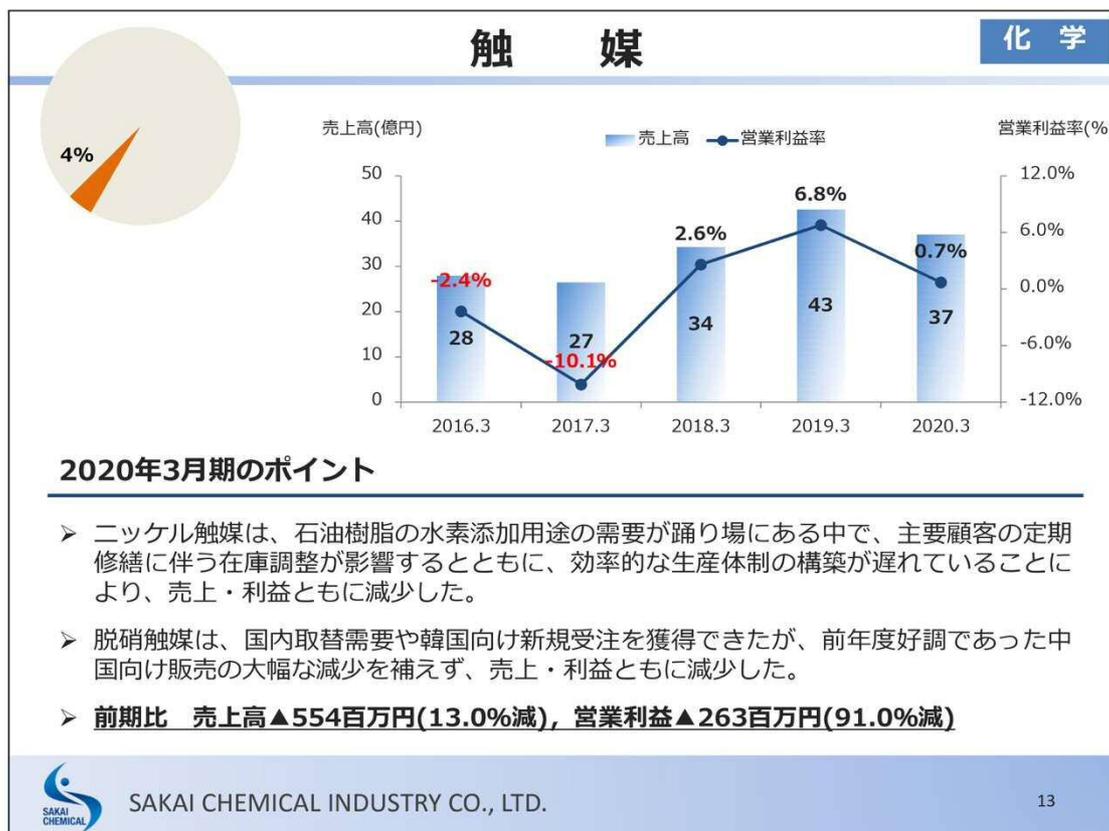
これによりまして、売上高は前期比プラス 6,400 万円、0.8%増の 80 億 7,000 万円、営業利益は前期比マイナス 7,200 万円、29.3%減の 1 億 7,400 万円となっております。



続いて、有機化学品です。チオ製品は、高屈折率メガネレンズが各国の経済成長に伴い伸長していることを背景に、プラスチックレンズ用途の販売が好調に推移するとともに、生産の効率化施策の効果も現れ、売上・利益ともに伸ばしております。

また、医薬品原薬・中間体の生産受託は、収益の大半を支えてきた主力中間体の減少を、2014年以降に立ち上がった複数原薬の伸びと顧客要望に応えたスポット生産・販売でカバーし、売上・利益ともに伸ばしております。

これらによりまして、売上高は前期比プラス2億5,300万円、4.3%増の61億7,200万円、営業利益は前期比プラス4億4,300万円、53.5%増の12億7,100万円となりました。

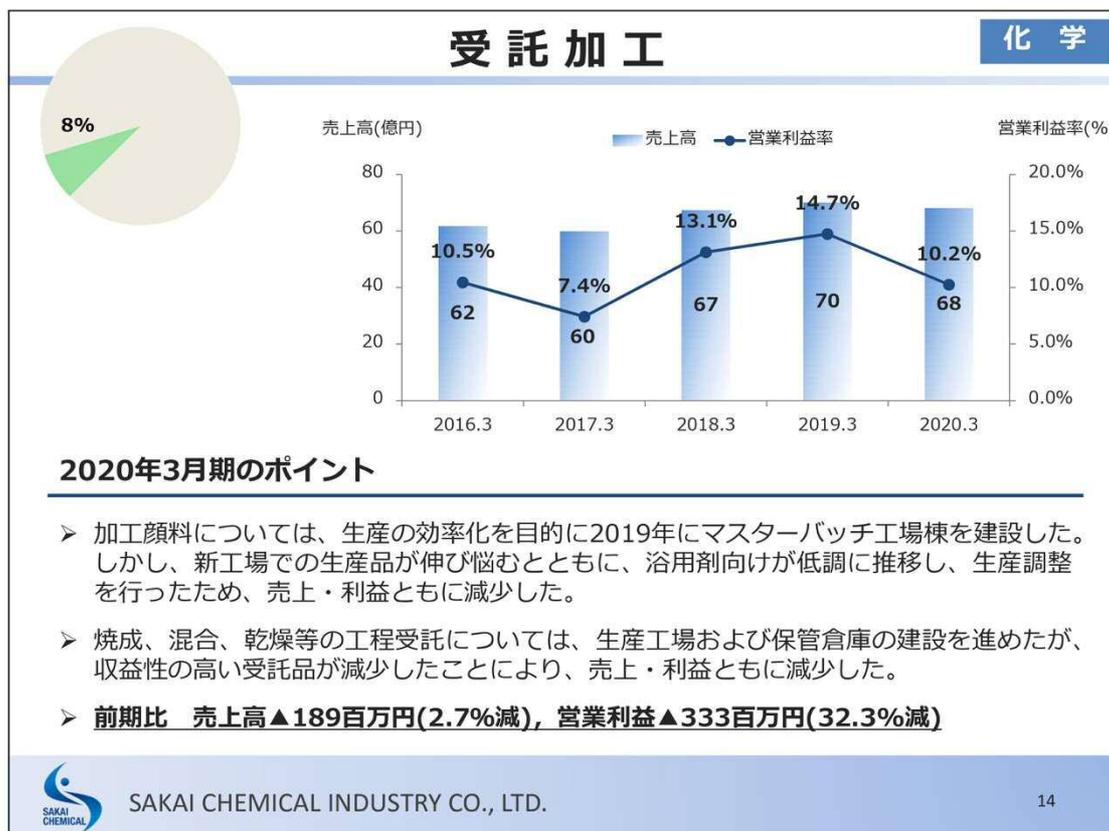


続いて、触媒です。ニッケル触媒は、石油樹脂の水素添加用途の需要が踊り場にある中で、主要顧客の定期修繕に伴う在庫調整が影響するとともに、効率的な生産体制の構築が遅れていることにより、売上・利益ともに減少しました。

また、脱硝触媒は、国内取替需要や韓国向け新規受注を獲得できましたが、前年度好調でありました中国向け販売の大幅な減少を補えず、売上・利益ともに減少しました。

特に、脱硝触媒につきましては、2019年3月期にこの触媒事業の中の32%を占めておりましたが、2020年3月期には25%に減っております。

これらによりまして、売上高は前期比マイナス5億5,400万円、13.0%減の37億300万円、営業利益は前期比マイナス2億6,300万円、91.0%減の2,600万円となりました。



続いて、受託加工です。加工顔料については、生産の効率化を目的に、2019年にマスターバッチ工場棟を建設し、移転をしました。しかし、新工場での生産品が伸び悩むとともに、浴用剤向けが低調に推移し、生産調整を行ったため、売上・利益ともに減少しております。

焼成、混合、乾燥等の工程受託については、生産工場および保管倉庫の建設を進めましたが、収益性の高い受託品が減少したことにより、売上・利益ともに減少しました。

これらにより、売上高は前期比マイナス1億8,900万円、2.7%減の68億1,100万円、営業利益は前期比マイナス3億3,300万円、32.3%減の6億9,800万円となりました。



最後に、医療事業です。X線バリウム造影剤は、大口検診機関のニーズ対応を強化に努めた結果、国内販売の縮小を最小限にとどめるとともに、韓国・台湾への輸出を増加させ、売上・利益ともに前年並みとなりました。

アルロイドG に関しましては、薬価引き下げの影響はあるものの、後発品メーカーの撤退により需要が戻りまして、売上・利益ともに伸ばしております。

医療機器は、機器全体の販売台数は伸び悩みましたが、メンテナンス契約獲得や消耗品販売が堅調に推移し、売上・利益ともに伸ばしました。また、2019年6月に上市した内視鏡手術用粘膜下注入材および注入材用穿刺針が売上に一部寄与しました。

一般用医薬品は、不採算品目の整理等により売上は減少しましたが、利益は改善しました。また、日焼け対策サプリ「ソルプロ」シリーズが好調に推移しました。

これらによりまして、売上高は前期比プラス3億3,600万円、4.1%増の86億2,100万円、営業利益は前期比プラス2億1,700万円、57.8%増の5億9,400万円となりました。

キャッシュ・フロー

金額単位：百万円

	2019.3	2020.3	増 減
期首の現金残高	13,848	11,175	▲ 2,673
税金等調整前当期純利益	5,239	3,999	▲ 1,239
減価償却費	3,189	3,686	497
その他	▲ 5,673	▲ 1,231	4,442
営業活動によるキャッシュ・フロー（営業CF）	2,755	6,454	3,698
設備の支払額	▲ 6,891	▲ 8,403	▲ 1,511
その他	1,433	▲ 21	▲ 1,454
投資活動によるキャッシュ・フロー（投資CF）	▲ 5,458	▲ 8,424	▲ 2,966
財務活動によるキャッシュ・フロー（財務CF）	64	▲ 68	▲ 132
期末の現金残高	11,175	9,148	▲ 2,026

◆ 営業CF

売掛債権回転期間の短縮および法人税等の支払い減少により、増加した。

◆ 投資CF

電子材料および化粧品材料製造設備の増強、技術開発棟や危険物製造設備の建設など設備投資を行い、減少した。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

16

16 ページ目のキャッシュ・フローですけれども、この2020年3月期の特徴としましては、設備の支払額としまして、前期68億9,100万円に対し、当期は84億300万円と、15億1,100万円増加しております。

この設備投資の増加が一番大きな特徴でして、この投資キャッシュ・フローにつきましては、電子材料および化粧品材料製造設備の増強、技術開発棟や危険物製造設備の建設などの設備投資を行っております。

営業キャッシュ・フローに関しましては、売掛債権回転期間の短縮および法人税等の支払い減少によりまして、キャッシュ・フローが増加しております。

これらによりまして、期末の現金残高は91億4,800万円と、前期に比べ20億2,600万円減少しておりますが、資金等の効率的な運用により、この水準で特に問題なく動いております。

以上です。

司会：続きまして、2021年3月期について、社長の矢部よりご説明いたします。

2021年3月期について

有事対応を最優先とし、引き続き顧客、調達先、社員とその家族の安全確保ならびに感染予防と拡大防止に努め、事業継続に向けた取り組みを行っていく。

業績予想

現時点では予測が困難なため、一定の見通しが立った時点で開示する。

株主還元

- 現時点では年間配当予想も未定としているが、安定配当と総還元性向30%以上を基本として検討している。
- 現時点では自己株式取得の予定はない。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

18

矢部：社長の矢部でございます。よろしくお願いいたします。

18 ページですが、私どもの製品につきましては、医薬品を除きまして、化学品はサプライチェーンの川上でございますので、現時点では理論的な数値予想が困難なため、2021年3月期の通期業績予想は一定の見通しが立った段階で開示させていただきたいと思っております。

株主還元につきましては、従来から年間配当につき、総還元性向 30%以上を基本としてきました。現在のところ、業績の見込みが非常に見通しづらい状況でございますが、この方針を引き続き続けられるように努力していきたいと考えております。

現時点で自己株式の取得の予定はございません。

想定される新型コロナの影響と対応

■ 化学事業

電子材料	自動車向けについては世界的に生産台数の減少が予測されており、当社製品の消費も大きな影響を受ける恐れがある。一方、積極的な投資が期待される5Gなど通信基地局向けや、テレワークの整備・普及などによる需要が期待される機器分野向けについては、軽微な影響と予想される。前年度から進めている設備投資が2021年3月完工予定であり、来年度以降の需要回復に備える。
酸化チタン・亜鉛製品	顔料用酸化チタンは主用途の塗料、インキ、製紙、繊維などの産業で停滞することが予測されるため、さらなる事業の効率化、最適な生産体制の検討を進めていく。UVケア化粧品用途では人々の屋外活動が制限されることによりマイナスの影響を受ける恐れがある。前年度から進めている設備投資が2021年2月末完工予定であり、来年度以降の需要回復に備える。
樹脂添加剤	日本国内、アジア市場ともに主要エンドユーザーである住宅、自動車業界の停滞が予測されることから、マイナスの影響を受ける恐れがあるが、コスト削減を図るとともに海外の市場開拓を進める。



SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.

19

19 ページでございますが、セグメント別に新型コロナの影響、および私どもの対応につきまして、定性的なところを中心にご説明させていただきます。

まず、電子材料につきましては、自動車向けは世界的に生産台数の減少が予測されておりました、当社製品の消費も大きな影響を受ける恐れがあると考えております。

一方、積極的な投資が期待されます、5Gなど通信基地局向けや、テレワークの整備・普及などによる需要が期待される機器分野向けについては、軽微な影響と予想しております。前年度から進めております設備投資が2021年3月に完工予定であり、来年度以降の需要回復に備えたいと考えております。

4月が終わりまして、もう5月もほぼ終わりに近づいておりますけれども、5Gもしくはテレワーク、パソコン等向けと考えられるものにつきましては、前年よりも増えておりますが、自動車向けと考えられるものにつきましては良くない状況でございます。

次に、酸化チタン・亜鉛製品でございます。顔料用の酸化チタンは主な用途の塗料、インキ、製紙、繊維など、幅広い分野で使われておりますけれども、この辺りがやはり停滞すると予測されております。さらなる事業の効率化、最適な生産体制の検討を進めていく予定でございます。

化粧品用の UV ケア向けの微粒子の酸化チタン・酸化亜鉛につきましては、テレワークなど、屋外の活動が制限されること、またインバウンドの需要が減ることにより、マイナスの影響を受ける恐れがございます。前年度から進めております設備投資が 2021 年 2 月末完工予定であり、来年度以降の需要回復に備えていきたいと考えております。

現状を申しますと、受注していたものがキャンセルされるケースもあり、前年に比べますと出荷量は 90%ぐらいで推移しております。

次に、樹脂添加剤でございますけども、日本国内、アジア市場ともに主要エンドユーザーであります住宅向け、自動車産業業界の停滞が予測されることから、マイナスの影響を受ける恐れがございます。コスト削減を図るとともに、海外市場への開拓を積極的に進めたいと考えております。

タイ国で、塩ビパイプについては脱鉛化が本格的に法令化されまして、脱鉛の方向に進んでおりますので、私どもの脱鉛製品であるカルシウム・亜鉛系安定剤のシェア確保に努めてまいりたいと考えております。

想定される新型コロナウイルスの影響と対応

■ 化学事業

衛生材料	原料確保に不透明な点はあるものの、日用品としての消費は必要とされることから、大きな落ち込みは想定していない。技術力の向上に取り組み、事業の安定的拡大をめざす。
有機化学品	多才製品、医薬品原薬・中間体受託のいずれも末端製品の需要の大きな落ち込みはないものと見込まれ、当社製品への影響は軽微なものと予想される。新たなニーズの収集と開発技術力の強化により、次の収益の柱になる製品育成に取り組む。
触媒	ニッケル触媒の主用途である食油関連、衛生材料向け部材、特殊フィルム等の大きな需要減はないと見込まれる。 脱硝触媒は、海外の新規物件は遅れ等が発生する恐れがあるが、取り換え需要が必ず発生することから大きな影響はないものと予想される。 重金属フリーのポリエステル重合用触媒など環境負荷低減やエネルギー問題に対応した新規触媒の開発に注力する。
受託加工	顧客の試作、開発活動の停滞が予想されることから、新規案件の進捗が滞る恐れがあるが、工場の整備を進めてより強固な生産体制を構築し、新規受託案件獲得に努める。



次、20 ページでございます。衛生材料につきましては、紙おむつ用のフィルムが主な用途でございます、日用品としての消費は必要とされることから、大きな落ち込みは想定しておりません。安定生産に努めているところでございます。

インドネシアの工場では、不織布と通気性のフィルムをセットにした防護服の需要が非常に増えていることで、現在フル稼働と聞いております。

次に、有機化学品でございます。チオ製品（プラスチックのメガネレンズ用モノマー）、医薬品原料・中間体の受託ともに末端製品の需要の大きな落ち込みはないものと見込んでおります。従って、当社製品への影響は軽微なものと予想しております。

この分野につきましては、新たなニーズの収集と、開発技術力の強化によりまして、次の収益の柱になる新製品を育成していきたいと考えております。

次に、触媒でございます。ニッケル触媒の主な用途であります食油関連や、衛生材料向けの部材、特殊フィルム等の大きな需要減はないと見込んでおります。衛生材料向けにつきましては、来年度に、一つのユーザーで千葉の新工場が稼働するという事も聞いておりますし、特殊フィルムについても現在のところ非常に好調で、お客様の方でさらに増設の動きがあるということも聞いておりますので、そういう需要を取りこぼさないように確保していきたいと考えております。

脱硝触媒につきましては、このような状態下ですので、海外の新規物件は遅れ等が発生する恐れがございます。しかし、これは取り換え需要が必ず発生することから、大きな影響はないものと予想しております。

触媒につきましては、重金属フリー（アンチモンフリー）のポリエステル重合用触媒など、環境負荷低減や、エネルギー問題に対応した新規触媒の開発に注力しております。

受託加工につきましても、顧客の試作、開発活動の停滞が予想されることから、新規案件の進捗が滞る恐れがございますが、私どもは工場の整備を進めており、強固な生産体制を構築し、新規受託案件の獲得に努めてまいります。

想定される新型コロナの影響と対応

■ 医療事業

バリウム	集団検診の延期または中止により、バリウム造影剤の販売低下の恐れがある。
アルロイドG	診療行為の減少により、処方量減少の恐れがある。
医療機器	短期的には内視鏡検査、または手術数の減少が予測されるものの、一定期間で需要が回復するものと予想される。内視鏡用洗浄消毒器は、内視鏡手洗い施設への販促を進めていく。内視鏡手術用粘膜下注入材および注入材用穿刺針は、大学病院、大規模病院から中小クリニックまで営業強化を図る。
一般用医薬品・その他	かぜ薬「改源」等一般医薬品の一時的な増販は見られるものの、美容医療向け紫外線対策サブリ「ソルプロ」シリーズにおいては、消費者の外出機会減少等により需要減の恐れがある。美容医療向けにおいては、今後も新製品を投入し、事業拡大を図る。



次に、21 ページの医療事業でございます。

バリウムにつきましては、現在、集団検診の延期または中止により、バリウム造影剤の販売が低下しております。ただし、年間で見てもコロナが徐々に落ち着いてくれば、集団検診等も再開される見込みでございます。下期の回復を期待しているところでございます。

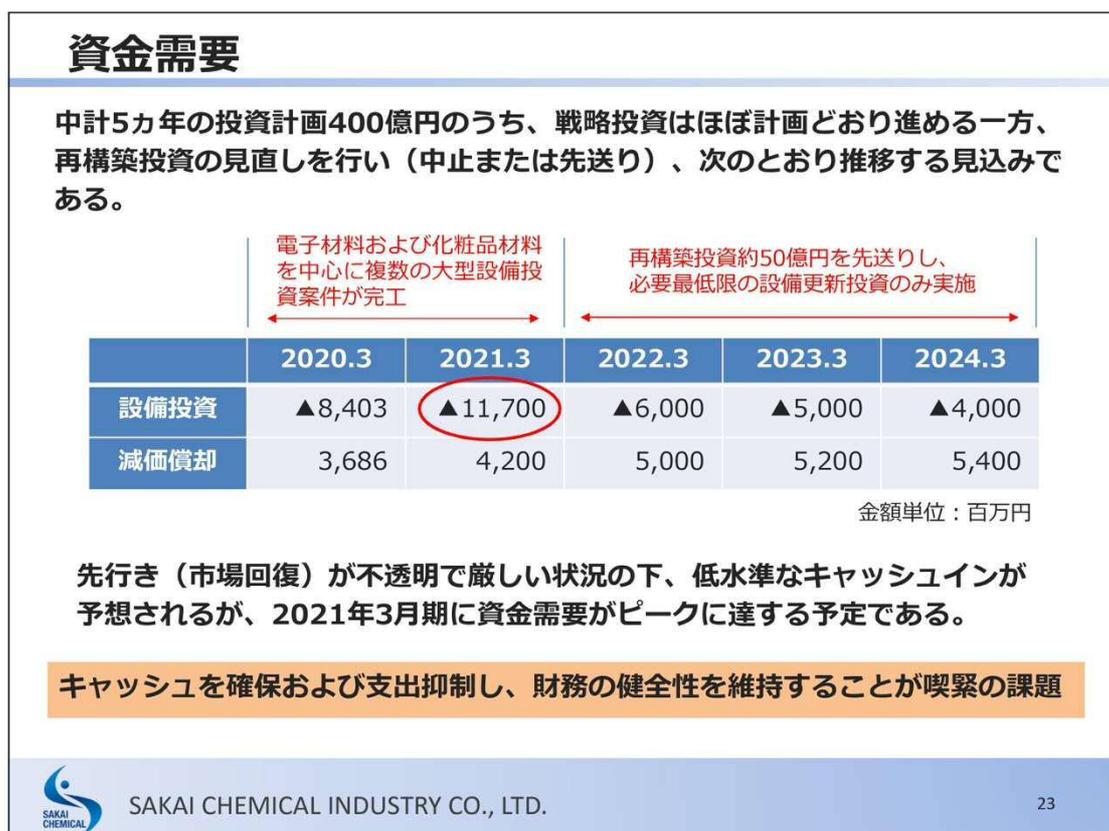
次に、アルロイドG、これは診療行為向けですけれども、やはり院内感染等を恐れての診療に来る人が減っていることで、前年に比べますとやはり減少するのではないかと現在予想しております。

医療機器ですが、短期的には内視鏡検査、または手術数の減少は予測されるものの、一定期間で需要は回復するものと予想しております。内視鏡用の洗浄消毒器は、まだ内視鏡の手洗いをしている施設がございまして、そちらへの販促を進めているところでございますけれども、営業活動が現在滞っている状況でございます。

昨年から新たに投入した内視鏡手術用の粘膜下注入材および注入材用穿刺針は、大学病院、大規模病院から中小クリニックまで営業強化を図ってまいります。

次に、一般用の医薬品およびその他につきましては、かぜ薬「改源」等は病院に行くよりも薬局等でOTCの薬を買う需要が4月にかなり増えたと聞いております。ただし、5月については、その反動で少し減ってきているところがございます。

美容医療向けの紫外線対策サプリ「ソルプロ」につきましては、消費者の外出機会減少等により需要減の恐れがあると見ておりましたが、室内でもやはり日焼けについては気にされる方がいて、4月は前年とほぼ同じ販売量となっております。この美容医療向けにつきましては、今後も新製品を投入しまして、事業拡大を図っていかうとしているところがございます。



それでは、財務の健全性維持の取組みにつきまして、ご説明いたします。

23 ページ、資金需要でございます。中計5カ年の投資計画は400億円であり、そのうち約190億円を戦略投資と位置付けて進めており、ほぼ予定どおり進めております。ただし、再構築投資につきましては、5年間で90億円を予定しておりましたが、これにつきましては利益を生むものではないので、現在の状況を勘案しまして、先送りもしくはペンディング、中止し、約50億円を縮小する計画に変えております。

設備投資は、2020年3月期が84億円、2021年3月期が117億円、2022年3月期以降は60億円、50億円、40億円というように、現在計画を引き直したところでございます。

2021年3月期に資金需要がピークに達する予定でございます。従いまして、現在キャッシュインが心配な状況でございますので、財務の健全性を維持するため、次の対策を打っております。

財務の健全性を維持するために

以下の項目に取り組んでいく。

資金調達	<ul style="list-style-type: none">• 長短借入金を増額
保有資産の見直し	<ul style="list-style-type: none">• キャッシュマネジメントシステムによるグループ内資金運用の効率化• 棚卸資産の圧縮• 政策保有株式の売却（株式市場が回復次第）
その他対策	<ul style="list-style-type: none">• 設備投資計画の不急案件は中止または先送り• コスト削減

SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.24

24 ページをご覧ください。まず、資金調達につきましては、長短借入金を増額を予定しております。

次に、保有資産の見直しでございます。上場しております堺商事を除きまして、100%子会社の資金につきまして、一括管理することで、キャッシュマネジメントシステムを導入しました。グループ内資金運用の効率化を図っており、もう既に実施中でございます。

棚卸試算の圧縮でございますが、2020年3月期で製品、仕掛、原料を合わせまして約231億円の棚卸資産がございます。2019年3月期は207億円でございました。このレベルまで何とか戻したいと考えております。

政策保有株式の売却でございますが、株式市場が回復後ということで考えており、当社のほうで基本的な方針を決めて売却の予定でございます。

その他の対策としまして、先ほども申しましたように、設備投資計画の不急案件は中止、または先送りしております。

それから、全社にわたしまして、コストの削減に取り組んでおります。工場におきましては修繕費のカット、ユーティリティー、メイン原料の原単位の改善等でコストダウン、営業および管理部門については、あらゆる出張、接待費等々の統制経費の一律カット等を実施し、進めているところでございます。

以上で、私の説明を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

質疑応答

司会：それでは、質疑応答に入ります。

質問者 1：MLCC 向けの誘電体・誘電体材料だが、在庫調整の進展はどのような状況か。足元のテレワーク需要などで底打ち感が出てきたのか。回復時期等のイメージがあれば教えてください。

矢部：大手顧客の 2020 年 3 月期の決算説明資料等を見ておりますが、昨年の 4 クォーターの MLCC の受注高は、徐々に増えてきている状況です。従いまして、コロナの影響がこれからどの程度及ぶのかは不透明でございますが、過剰在庫は解消されつつあるのではないかと見ております。

私どもの製品で見ますと、5G 向けと思われるものについては、現在のところ出荷が非常に好調です。自動車向けについては、やはり少し低調であります。

また、パソコン等に使われる、昔から販売している製品につきましては、ここに来て少し息を吹き返してきているように感じております。

質問者 2：新型コロナの影響について、第 1 クォーターから需要減が予想される製品は何と何で、前年比でどれくらい落ちそうか。一方、あくまで現時点では懸念はあるものの、第 1 クォーターは比較的堅調に推移しそうなものは何と何でしょうか。

矢部：電子材料の中の誘電体材料につきましては、第 1 クォーターは昨年よりも出荷が多い見込みでございます。誘電体につきましては、新製品が採用になりましたが、コロナの影響でお客様での展開が少し遅れており、その結果、昨年より少し落ちると見ております。

それから、酸化チタン・亜鉛のセグメントの中の化粧品材料ですが、現在お客様からキャンセルが出ておりまして、第 1 クォーターで前年に比べますと 10% くらい減るのではないかと見ております。

その他、酸化チタンにつきましては、コロナの影響がこれからどう出てくるかというところですが、これも前年比 90% くらいではないかと思えます。

あと、有機化学品は、そう変わらないように見ております。

医療事業につきましては、4 月は悪くありませんでしたが、5 月は連休も挟んでおりまして、落ち込む状況になりそうです。4-6 月でどうなるかは不透明ですが、バリウムの検診等が落ち込むことで前年に比べますとダウンしそうです。

質問者 2：電子材料の売上が、恐らく第 4 クォーターに、第 3 クォーター比で 20% ぐらい増えたと思うのですが、その理由は何でしょうか。一方、電子材料の営業利益は、第 4 クォーターはほぼ収支均衡となっているのですが、利益率が低い理由は何で、仮にコロナの影響が一巡した後、営業利益率はどうなりますでしょうか。

矢部：第 3 クォーターから第 4 クォーターに比べまして、誘電体材料が増加しました。この要因の一つは、お客様の在庫が少し解消されたということと、もう一つは、5G などの需要が増加したということと理解しております。

営業利益は、第 4 クォーターの方が少し改善されております。2020 年 3 月期で言いますと、第 3 クォーターが最も低かったです。

現在、お客様からは、今期は前年に比べまして誘電体材料はかなり増えるであろうと聞いております。誘電体につきましても、新製品が採用となっておりますので、お客様の方で展開が進みますと、採算性は良くなると見ております。2020 年 3 月期は電子材料の利益率が大幅に下がってしまったのですが、回復基調に持っていけるであろうと考えております。

質問者 2：酸化チタン・亜鉛製品の営業利益率が 2020 年 3 月期の下期は 6% 以上に回復しております。原価高の製品在庫が一巡したことが一因と思いますが、これもコロナ後には、この水準の利益率を維持できますでしょうか。

矢部：これは、酸化チタン・亜鉛製品セグメントの中に入っています化粧品材料が私どもの見立てよりもさらに好調であったことにより、利益を押し上げたのが一因でございます。

酸化チタンの顔料用につきましては、採算が厳しい状況が今も続いています。ただ、2021 年 3 月期につきましては、日焼け止め向けの化粧品材料の需要がこれからどうなるのかが一つのポイントになろうかと考えております。

今まで相当のインバウンド需要がございましたので、今後どう回復していくのかが懸念されます。世界的に見ますと、日焼け止めの需要は今後も増え、また、有機吸収剤からの代替で、私どもの酸化チタンや酸化亜鉛に追い風が吹いていることは間違いないと思っておりますが、一時的にはコロナの影響で日焼け止めの需要が停滞・ダウンするのではないかと考えております。

質問者 3：今期、上市予定で期待の新製品などはありますか。あれば、セグメントや製品概要をお聞かせください。

矢部：誘電体につきましては、ハイエンド向け微細誘電体が採用され、工場も出来上がりました。これがお客様の方で、どういうふうに展開してもらえるかというところでもあります。来年度も引き続き採用される予定のお客様もございますので、非常に期待しているところです。

あとは触媒関係で、まだ製品が完成したわけではないですが、環境にやさしくカーボンシフトできるような触媒等の開発・製造する技術が私どもにはございますので、今後さらに注力していきたいと考えております。

質問者 2：全社利益に占める有機化学品への利益依存度が、高くなっています。医薬品原薬・中間体の貢献が大きいとお見受けします。今期は医薬品原薬・中間体など大丈夫ということですが、来期以降、これが落ちてしまうリスクについて、どのように考えておけばいいでしょうか。

矢部：医薬品原薬・中間体は、大手製薬メーカーから受託しているものでございます。これは医療用に使われるものでございますので、大きな需要の変動は受けないと考えており、さらに新たな受託等も現在検討しておりますので、これからも伸ばしていきたいと考えております。

質問者 4：電子材料の 2020 年 3 月期の内訳を教えてください。高純度炭酸バリウムとチタン酸バリウムの売上動向、民生用と車載用の構成比の推移を教えてください。

矢部：2020 年 3 月期の売上高の実績ですけれども、電子材料全体が約 86 億円です。そのうちの誘電体が約 21 億円、誘電体材料が約 36 億円、その他が 28 億円程度でございます。

それと、民生用と車載用の構成比ですけれども、お客様からそこまで厳密に分けられて開示されていませんので、私どもではお答えしかねます。

司会：これで、質疑応答を終了いたします。

本日は、堺化学工業株式会社、2020 年 3 月期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。